

はじめに

「熟議 2017 in 兵庫大学」報告書の刊行にあたって

兵庫大学・兵庫大学短期大学部
学長 河野 真

2012年に文部科学省と共催で熟議を開催して以来、この度の「熟議 2017 in 兵庫大学」は6度目の実施となりました。

兵庫大学における「熟議」とは、熟慮と議論を併せた営みであり、市民自らが地域の課題解決について世代を超えて熟慮し、議論をする機会を提供して参りました。第1回目（2012年）の「熟議」以来、①熟慮、②議論、③共有、④振り返り、⑤活動の5つの段階を踏む「兵庫大学熟議手法」を用いています。また、昨年度からは若年者層に対する主権者教育を提供する機会としても活用していただけるよう、地元高等学校のご協力の下、多くの高校生にも参加いただいております。

今年度のテーマは、「ディープ・ラーニング（深層学習）」の研究をきっかけとした第3次AIブームを受け、そのAIを地域の課題解決に利用できないか「熟議」してみようという視点から、テーマ「AI×地域 ～AIで変える加古川地域の未来～」に決まりました。まずは熟議プロジェクトチームのメンバーがAIとは何かを勉強するところからスタートしたと聞いております。

熟議当日は、事前学習の成果を持ち寄り、高校生から80代の方までの間で活発な議論が繰り広げられました。その結果はグループ毎に「未来加古川地域新聞」としてまとめられ、例えば「高齢者の健康状態を把握し、非常時に病院などに通報できるシステムの構築」、「AIであらゆる土地の最適な栽培作目、栽培管理方法を判断し、農業を若い世代が参入しやすい戦略的産業とする」といったユニークな記事として要約され、議論の経緯も踏まえて、ポスターセッションで全員に共有されました。

地域課題を解決するのは「人」や「地域」のつながりであるという定説に「AI」の力をプラスして考えてみる。技術革新の可能性について考えさせられる面白い熟議であったと思います。

今回の熟議の成果を、本報告書からお読み取りいただければ幸いです。

最後に、本熟議に参加していただいたみなさまに深くお礼申し上げます。学生のファシリテーター研修の指導、当日はメインファシリテーターとして進行をお引き受けいただいたNPO法人生涯学習サポート兵庫山崎理事長、ご多用の中、当日お越しいただいた岡田加古川市長、地域の名物、銘菓をご提供いただきました地元企業様、各グループのファシリテーターとして事前研修に励み、当日のワークショップ運営にご尽力いただいた学生諸君、熟議実施にいたるまでの諸準備と報告書作成にご尽力いただいた熟議プロジェクトチームのみなさま、すべての関係者の方々に感謝申し上げます。